

伊賀市地域公共交通計画概要版

基本理念・基本方針

すべてのひとが幸せにくらせる 伊賀市の地域公共交通

～みんなで支え みんなが気軽におでかけできる ネットワークづくり～

基本理念・基本方針

	施策目標	施策
基本方針1	1-1 骨格となる公共交通ネットワークの維持・改善	1. 伊賀鉄道の持続的な事業推進 2. バス路線の維持・改善
	1-2 都市間をつなぐ広域交通の強化	3. JR関西本線、草津線および近鉄大阪線のサービス維持 4. 高速バス路線の維持 5. 隣接市町村との連携強化
基本方針2	2-1 地域の交通手段の確保	6. 地域の実情に応じた交通手段の検討 重点施策
	2-2 持続可能性の向上に向けた環境整備	7. 公共交通を地域で守る仕組みづくり 重点施策
	2-3 地域公共交通に対する地域や企業・団体との連携強化	8. 伊賀鉄道の支援・魅力づくりの継続・強化 9. バス交通の支援・魅力づくりの継続・強化
	2-4 公共交通の認知度・理解度の向上	10. 小・中学生や高校生を対象としたモビリティ・マネジメントの展開 11. 市内事業所を対象としたモビリティ・マネジメントの展開
基本方針3	3-1 利用しやすい向上に向けた分かりやすい路線・乗換案内の充実	12. 分かりやすい情報の発信 13. 利用しやすい運賃制度の構築
	3-2 乗り継ぎしやすい向上に向けた便利な乗継環境の充実	14. 乗り継ぎしやすいダイヤ設定 15. 鉄道駅の結節機能の向上 16. 安全・安心・快適な利用環境整備
	3-3 地域公共交通で外出しやすい利用につながる環境づくり	17. 二次交通の充実による公共交通の利用促進や利便性向上 18. 高齢者等への移動支援の充実 19. タクシー業者との連携強化 20. 新たなモビリティサービスの積極導入

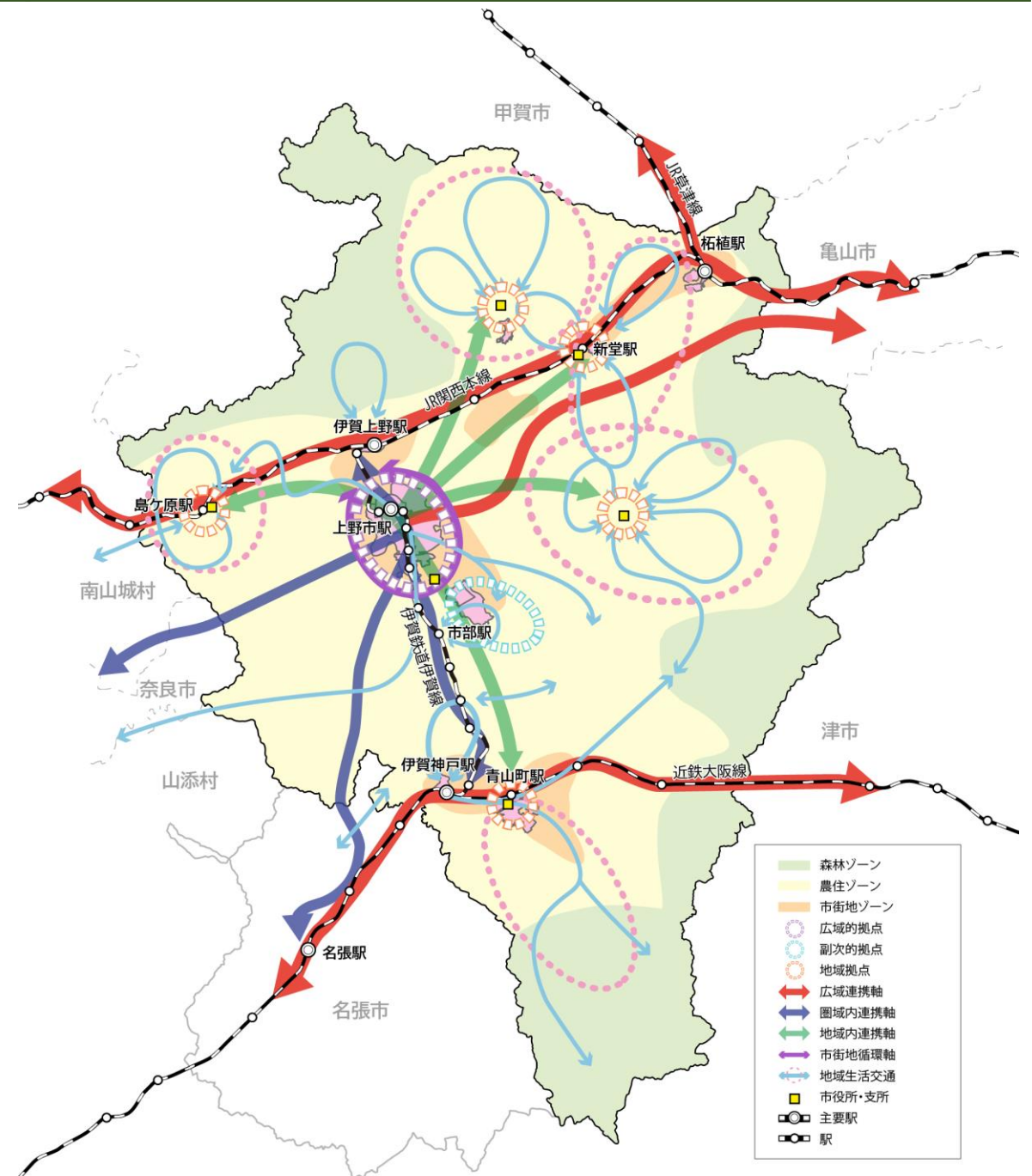
基本方針1 すべてのひとの生活の質を上げる 公共交通ネットワークの形成

基本方針2 みんなで支える 持続可能な交通体系の構築

重点方針

基本方針3 分かりやすく、便利な、利用につながる 公共交通サービスの充実

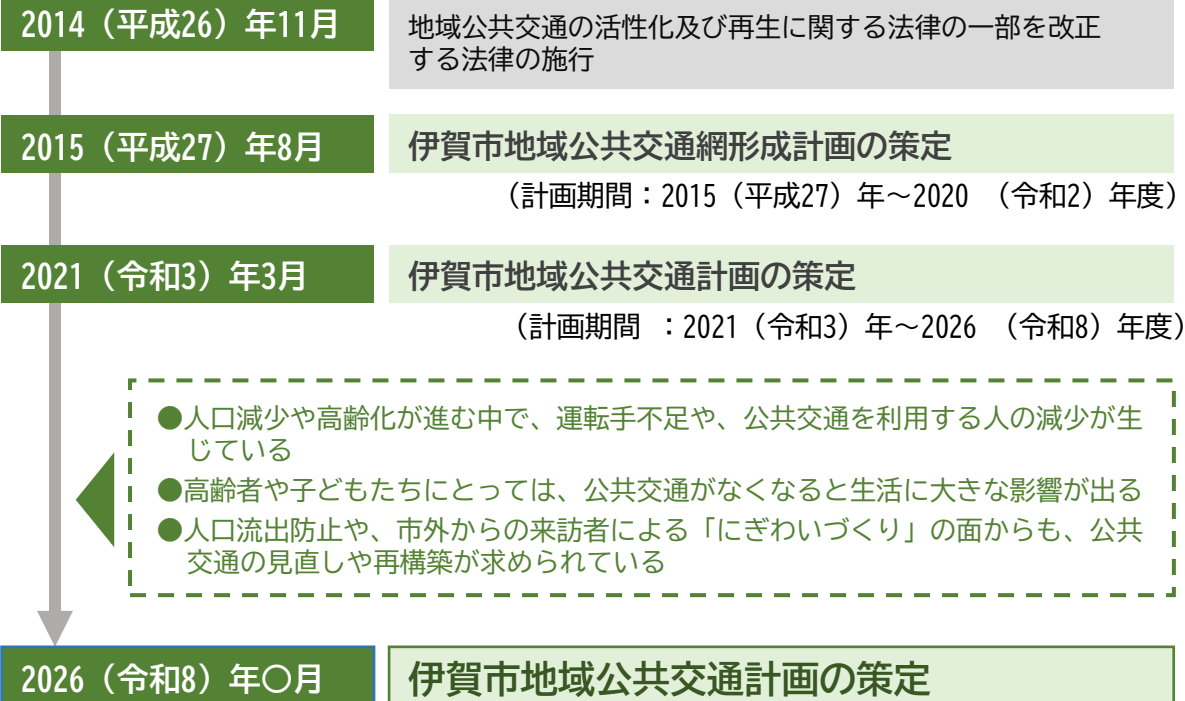
公共交通の将来イメージ



伊賀市地域公共交通計画概要版

計画策定の背景

計画期間の満了を迎える「伊賀市地域公共計画」を見直し、アップデートした新たな「伊賀市地域公共交通計画」を策定します。



計画策定にあたり実施した調査等

アンケート調査	公共交通利用者アンケート調査	2025（令和7）年10月23日～11月14日
	市民アンケート調査	2025（令和7）年9月16日～9月30日
	高校生アンケート調査	2025（令和7）年9月16日～10月7日
ヒアリング調査	<ul style="list-style-type: none"> 三重交通(株) 伊賀市社会福祉協議会 伊賀市教育委員会 近畿日本鉄道(株) 西日本旅客鉄道(株)阪奈支社 西日本旅客鉄道(株)京滋支社 伊賀上野観光協会 三重県タクシー協会/三重近鉄タクシー 伊賀鉄道(株) 伊賀市多文化共生課 	2025（令和7）年9月19日～10月8日
	<ul style="list-style-type: none"> 青山地域部会 島ヶ原地域部会 いがまち地域部会 大山田地域部会 上野地域部会 阿山地域部会 	<ul style="list-style-type: none"> 2025（令和7）年11月18日 2025（令和7）年11月19日 2025（令和7）年11月25日 2025（令和7）年11月25日 2025（令和7）年11月26日 2025（令和7）年11月28日

利用者・市民・高校生のニーズ

利用者

- ・ 利用促進に向けて、「鉄道の運行本数の増便」「乗り継ぎしやすいバスの路線・ダイヤ設定」が重視されており、阿山地域、大山田地域においては、「バス路線の新設や運行本数の増便」が重視されている
- ・ 「デマンド運行」と「自動運転」への関心が比較的高く、島ヶ原地域においては、「地域主体の住民参加型ライドシェア」への関心が高い

市民

- ・ 1年間に公共交通を「1回も利用していない」割合が、「利用した」を上回り、公共交通が十分に活用されていない
- ・ 外出の目的地は、「上野地域」が最も多く、市外・県外への広域的な移動ニーズもある
- ・ 利用促進に向けて、「バス路線の新設や運行本数の増便」が最も重視されており、大山田地域では「学生や高齢者を対象とした運賃の無料化や補助」、島ヶ原地域では「地域のニーズに応じた地域主体の交通の充実」が重視されている
- ・ 「安価で移動できる地域主体の交通手段」と「自宅近くで乗降できる予約型の乗合タクシー」への関心が高い

高校生

- ・ 利用交通手段は、「家族等による送迎」の割合が最も高く、行政バスなどは利用が少ない
- ・ 外出の目的地は、「上野地域」が最も多く、市外・県外への広域的な移動ニーズもある
- ・ 利用促進に向け、「バス路線の新設や運行本数の増便」、「学生や高齢者を対象とした運賃の無料化や補助」、「地域のニーズに応じた地域主体の交通の充実」が重視されている
- ・ 「安価で移動できる地域主体の交通手段」と「鉄道や路線バスの定期券購入補助制度」への関心が高い

地域公共交通の課題

1 | 都市構造や移動ニーズを考慮した地域公共交通体系の構築

- ・ 多核連携型都市の実現に向け上位関連計画と連動した、公共交通ネットワークの形成
- ・ 地域特性や利用実態に応じた見直し
- ・ 伊賀鉄道の活性化
- ・ スムーズな乗継移動

2 | 公共交通の利用しやすさの向上

- ・ 市内の輸送資源を最大限活用した、効率的な交通ネットワークの構築
- ・ 割引・助成制度の活用等、サービスレベルの向上
- ・ 交通結節点の整備
- ・ 誰にとってもわかりやすく見やすい情報の提供やダイヤの設定
- ・ 外国人等にとっても利用しやすい案内・利用環境の整備
- ・ 公共交通の利用に向けた取組の周知強化

3 | 周辺自治体との広域移動の利便性確保

- ・ 周辺自治体へ通勤・通学できる環境等、広域ネットワークの維持
- ・ 観光客など市外からの来訪者も利用しやすい環境整備

4 | 分野間の調整による効率的な交通サービスの維持・確保

- ・ 地域内の多様な交通手段の連携による交通体系の構築
- ・ 持続可能な公共交通の再構築
- ・ 多角的な効果を踏まえた地域公共交通施策の検討

5 | 周辺自治体との広域移動の利便性確保

- ・ 担い手の確保や交通手段の検討等、地域主体の公共交通の構築
- ・ 市民の関心を高める取組や情報発信の推進